

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	春光台クリニック グループホーム	評価実施年月日	2008年8月25日～2008年10月2日
評価実施構成員氏名	小林 早苗、五十嵐光治、寺嶋美代子、大江雅子、有海英美 関口和子、安曇せつ子、宮野宮子、福田月津江		
記録者氏名	尾内 憂希	記録年月日	2008/10/2～2008/10/14

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>カンファレンスや常勤者会議で話し合い、作り上げた。地域という言葉を組み込んだ新しい理念を考えた。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>週一回のミニカンファ、月一回のカンファレンスで共有し、常々、理念を念頭に行なっている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームに掲示しているが、新しい理念はまだ浸透していない。</p>	○	<p>今後、通信やパンフレットに載せたり、職員へ配布し、浸透するよう実施して行く。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩など外出時に挨拶をし、立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけている。畑の話等、日常的に会話している。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内の敬老会、地域のお祭り、公民館の利用、町内会の廃品回収、保育園児との交流、ボランティアの受け入れを行なっている。また、GHのお祭りへの参加を呼びかけている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>見学を随時受け付けていたり、介護相談を受けている。人材育成の貢献としてヘルパー実習生の受け入れを行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員参加の上取り組んでおり、改善に向けて実践出来る様、ミニカンファ等で話し合っている。	
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方・ケアマネージャー・家族・入居者が参加し、3ヶ月に一度実施している。職員も参加し、会議の内容で出た意見を元にカンファレンス等で話し合っている。また、議事録を作成し、職員・家族が目を通し会議の内容を共有出来る様にしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	旭川市からの通達等で必要な情報を把握しており、ケアに反映させている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	講習会などに参加しており、カンファレンス等で職員に説明している。また、制度についてのパンフレットを事務所に置いており、いつでも読めるようになっている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	管理者が日常的に指導を行っており、必要時対応の仕方について話し合っている。虐待防止については文章化していない。	○ 資料を作成し、職員に配布して行く。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとり、丁寧な説明を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の中で聞き、不満や苦情があった場合は、ミニカンファ等で話し合い、改善に向けて努めている。また、個別に話し合う機会を設けている。外部者へ表せる機会として運営推進会議に参加してもらっているが、数人のみの参加である。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりを載せた通信を毎月発行し、家族に送付している。また、お小遣い帳に記入し、請求書送付時そのコピーと領収書を家族に送付している。状態変化や、健康状態などはその都度電話連絡を行っており、訪問時にも伝える機会を作っている。定期的に(1年に2回程度)家族会を開催し、職員の紹介や、普段の様子を報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に(1年に2回程度)家族会を開催しており、アンケートを取ったり、質疑応答の場を作っている。また日常的に家族とも交流を図り、場を設けている。苦情相談窓口の紹介もしており、施設内の玄関に意見箱を設置している。	○	家族は、預けている立場なので、遠慮して意見・不満などを言えていないことを想定し、今後、家族からより多くの意見を聞くためにどのような方法がいいか話し合いたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスやミニカンファレンスで機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な勤務調整ができています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は基本的には行っておらず、必要時の異動も最小限に抑えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部への研修へ参加出来る様機会を設けている。また、カンファレンスで内部研修・勉強会を行い、職員のスキルアップに努めている。	○	段階に応じた育成プログラムの作成。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議のメンバーに、近隣のグループホームのケアマネージャーに加わっていただいている。他介護施設などの見学を行なっている。研修会に参加し、同業者との交流の場は設けている。しかし、それを活かした取り組みはしていない。	○	同業者との交流を図る方法を職員で話し合っていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務希望を聞いた上で勤務表を作成している。職員も楽しめる行事を思索したり、定期的に職員同士の交流会を開いたり、連絡ノートに日頃の思いを記入するなど、ストレス発散の場を提供している。必要時個別面談を行なっている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の状況は管理者を通じて把握している。管理者を飛び越えて職員に働きかけるシステムはとっていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ず入居前に面談を行い、本音を聞きだせるように努めている。受容の姿勢にて話を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時に、今に至るまで経過を聞き、家族側のニーズを把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受ける際には、客観的な視点で行なっている。状態に合った、またはニーズに合ったサービスの紹介や、必要に応じて包括支援センターや、他の事業所へ繋げる対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず見学して頂いて、ホームの雰囲気を体験してもらい入居に至っている。必要時ホームの生活を、短時間ではあるが体験して頂いている。また、入居時のケアプランでは、ホームの生活に慣じめるような内容のものにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の喜怒哀楽の状態を受容し、共に生活するという意識を常に心がけて接している。共同作業などを通じ、職員が学ぶ側に立ち関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来館時に利用者の日々の様子を伝えたりなど、家族との関係を密にし、職員と話しやすい環境づくりに努めている。また、利用者について必要な情報はその都度家族に聞き、情報の共有に努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの関係を、入居時の面談や日々の会話の中で把握し、ミニカンファ等で関係作りの方法を話し合っている。また、家族来訪時、本人との間に職員が入り、関係が円滑になるように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの人の来館を受け入れ、関係が途切れないように努めている。本人が希望すれば、馴染みの場所への外出もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでの席替え、バスの乗車位置など、利用者各々の性格や利用者同士の関係を把握し、集団生活を円滑に過せる様に努めている。また、利用者同士で共同作業やレクをし、一人が孤立しないような職員の配置を行ったり、普段会話する事のない入居者同士の間に入り、関わりが出来る様にしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事などの参加や、来訪を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望を、日常的な会話の中から引き出している。困難な方には、センター方式の活用により、利用者本位の考え方になるよう検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期段階でバックグラウンドの周知に努めている。入居後も家族や本人よりこれまでの習慣や生活状態の情報の収集を行っており、共通認識としている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	バイタル、排尿、食事・水分量を一枚のチェック表に、一日の過ごし方、気分などは個人記録や連絡ノートの記入、引継ぎにて把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランの作成には、利用者を交えてのモニタリングや面談にて本人の思いを聞き、また、家族の意向・ミニカンファでの話し合いに基づいて、利用者本位のものになるように努めている。必要時は、OT・PT・NS・Drにも相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状況に応じて、その都度ミニカンファ等で話し合い、計画の変更や追加を行なっている。介護計画は個人記録に綴じ、毎日目を通せる状態にしており、状態変化があればすぐに見直しできる環境にある。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個人記録(24時間シート)を記入している。特別な事があれば、ミニカンファをしたり連絡ノートを活用して、職員全員に伝え、共有の意識を持ちケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制活かして、日頃の健康チェック、医療相談を常々行なっている。母体のクリニックへの受診の送迎を行なっている。他医療機関への受診は、家族が困難な場合、送迎を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員が参加。外部用通信を発行し、スーパー、タクシー会社、公民館、町内会、に配布している。	○	定期的な外部用通信の発行。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	定期的に、訪問理・美容サービスを利用しており、本人の希望時には、その都度利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時相談をし、地域資源ネットワーク作りのために、関係を深めている。支援センター主催の研修会などに参加している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人・家族にかかりつけ医の希望を聞いている。母体のクリニックがかかりつけ医のため、連携を密に出来ている。専門医の受診・本人や家族の希望する医療機関への受診も、クリニックの医師(かかりつけ医)が紹介状を書き、適切な医療が受けられている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて専門医の受診をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的(週に1~2度)同事業所の看護師が来訪し、常態把握に努め、日常的な健康管理のアドバイスを受けたり、医療についての相談を行なっている。その内容は、看護師が来訪毎に看護記録に記入し、情報が共有できるようにになっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合には、職員がお見舞いに行き毎月の通信を利用者に渡したり、その際に病院関係者に様態を聞き、その都度情報交換や相談を行なっている。また、家族からも様子を聞く等し、退院後の受け入れ体制を整えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に、終末期・重度化について説明し、本人・家族の希望・意思を尊重しながらも、ホームの設備面の問題から、特養や老健への申し込みを勧めている。しかし、具体的な話し合いの場を設けていない。	○	重度化・終末期を迎える前に利用者・家族との話し合いの場を作り、方針を定めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	その都度、母体のクリニックと連携をとり、変化に応じて対応をしている。「出来る事・出来ない事」については、話し合っている段階で、準備を進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人や家族と十分に話し合いを行なっていて、ダメージを最小限に抑える努力をしている。住み替えの際は、情報提供用紙によって、情報を送っている。必要であれば、電話などでの情報交換も行なっている。</p>	<p>？</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人に合った声掛けや対応を心がけている。個人記録などの個人情報を、他者の目に触れる場所に置かないようにしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の思いや希望に応じ、その時々で状態に応じて声掛けに工夫し、本人の意見を引き出すように対応している。選択できない方には、職員の意見を押し付けないように配慮している。外出行事への参加は希望を取ったりしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物・ドライブ・畑仕事など希望があれば、その都度臨機応変に対応している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に、訪問理容・美容サービスを利用しており、本人の希望時には、その都度利用している。希望に合わせたカット・カラー・パーマをしている。日常的に身だしなみを整えており、行事や外出時にはおしゃれができるように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを聞いて作るよう心がけている。利用者と一緒に育てた野菜を、収穫し、料理に取り入れるなど、季節感ある食事を提供している。また、同じテーブルを囲み、同じ食事を食べながら、楽しい準備・片付けは、個々の出来る力にあわせ、テーブル拭きや配膳・下膳・食器洗いなど一緒にしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望に応じ、喫煙所を設けタバコを吸えるようにしている。好みのおやつを自由に買って楽しんだり、飲み物を提供する場合希望を取ったりもする。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、その人に合ったトイレ誘導をしている。利用者の行動の把握をし、トイレサインを見逃さないようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ゆったりと入浴出来る様に、一人一人のペースにあった時間配分をし、職員と会話を楽しみながら一対一で入浴している。お湯の温度なども、本人の希望にあわせてたり、入浴剤を使用している。最低でも週に二日は入浴している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、昼食後には昼寝の時間を設け休息する事で、生活にメリハリをつけている。消灯時間は無く、就寝前は自由に過ごしていただいている。寝付けなれない方には、飲み物を提供したり、話を聞いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の得意な事、やりなれた事を把握し、役割にして頂いており、意欲を持って出来る様に支援している。それぞれの楽しみ事(家事・畑仕事・歌・編み物・縫い物・パズル・新聞縛りなど)を自由に出来る環境作りをしている。体操・レクリエーションで大声を出したり、行事(外出・外食・行事食)や散歩・ドライブなど提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を管理できる方には、家族の了解を得てお財布を持っていただいている。管理できない方でも、買い物の喜びや社会性を持っていただけるよう、買い物や外出を楽しんでいただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物(おやつや衣類など)や散歩など、出来る限り本人の希望に添った外出をしている。ドライブやお茶にも、気分転換に繋げるため、利用者の状態に合わせて出掛けている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が希望すれば家族と相談し、個別の外出を支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があり家族の了承が得られれば、居室に電話を引き、自由に利用できるようにしている。居室に電話を持たない方でも、館内の電話を使用し、掛ける事も掛かってきた電話を受ける事もできる。手紙を出したり、年賀状の購入の支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間などは定めておらず、家族や友人・知人が気軽に訪問できるように穏やかな雰囲気作りに努めており、お茶などの提供をしている。また、家族には食事への声がけもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束が必要な方はいない為、具体的な取り組みは行なっておらず、正しい理解には及んでいない。	○	今後正しい理解に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、利用者の行動を把握し、外出したい様子があれば、その都度散歩やドライブに出かけ、出られない事でストレスにならない様に努めている。最悪の事態に備え、玄関にはセンサーを付けている。利用者の状態によっては施錠する事もあるが、その際は目印と声掛けで、連携が取れている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、職員同士声を掛け合い、一人一人の所在や様子を把握している。夜間は、フロアから居室の出入り口が見えるところに職員が待機し、2時間ごとの巡回と、必要時には訪室して。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は、ケースに入れ棚の上に保管。はさみは、職員管理のもと使用し、数の確認を行なっている。薬は、事務所管理にしている。洗剤が収納している扉には、鍵がついている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状況に合った事故防止に取り組んでおり、ヒヤリハット報告書を活用している。事故が起きた際は、事故報告書を作成し、再度起こらないように検討し、対策に取り組んでいる。灰皿には水を入れており、ライターやタバコは事務所管理としている。オール電化で全室防火カーテンを取り付けている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアル等を作成しているが、定期的には行っていない。	○	定期的に取り組んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災については、年に二回利用者と一緒に避難訓練を行なっている。日中、夜間を想定し、2ユニットの職員で対応できる方法を常に検討している。	○	運営推進会議で協力を呼びかける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人一人のリスクマネジメントを考え、家族と話し合い安全に生活出来るよう配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックにて普段の状態を把握しており、状態に変化があれば、すぐにバイタルチェックをして、管理者報告している。職員全員で現状を把握し、必要時受診に繋げている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人毎に薬の説明書をファイルしており、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更後に状態変化があれば、すぐに母体のクリニックに相談・受診している。薬のセットに三段階チェックを踏まえ、服薬時には、名前・日付・錠数の確認を声に出してチェックしている。飲み込みまで確認後、空き袋のチェックを行なっている。一人一人の薬の目的・副作用・用法・用量全ての把握には至っていない。	○	把握する為に、どうしたらいいか話し合っていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維の多い食材や乳製品を取り入れている。水分摂取量を把握し。家事や体操、歩行訓練などで体を動かし、自然な排便を促しているが、自然排便が困難な方には下剤や坐薬など使用している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に歯磨きの声掛けを行い利用者の能力に応じて対応している。義歯は洗浄剤を使用。昼食後には必ず職員が介入し、歯間ブラシの使用や口腔清拭を行い、歯や舌の汚れをきれいに除去している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日チェック表に一日の食事・水分摂取量を記録し摂取状況を把握している。栄養・メニューが偏らないように、献立表には食材も記入している。管理栄養士のアドバイスをもらっている。利用者の好き嫌いを把握したり、薬の禁止食の方には、別メニューを用意している。個別の状態に合わせ、ミキサー食・とろみ食・一口大にする等の加工や、食事量を減らす・増やすなどの調節も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は感染予防に努めており、利用者・家族・来館者にも声掛けし、手洗いうがい徹底している。毎食前には全員で手洗いと消毒を必ず行なっている。感染予防マニュアル作成し、職員に配布している。利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種をうけている。	○	定期的な勉強会を行なっていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫の食材は、職員が消費期限の確認を行い、早めに使う食材などは、メモや声掛けにて使い切るようにしている。使用しているまな板・包丁・布巾はその都度消毒しており、食器類も、洗浄後熱乾燥を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	道路に面しているところに花壇を作ったり、玄関前にプランターとベンチを設置し、アットホームな雰囲気作りをしている。冬場や雨の日は、スロープが使用出来ない為、簡易スロープを使用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明は暖色を使用している。オープンキッチンの為、調理の音や洗物の音などがリビングに聞こえ、生活感を感じる事ができる。リビングの窓が大きいので、天気や季節を感じられる。季節を感じられる花などを飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外に面した大きな窓のそばに、椅子を置き、くつろげるスペース(パーソナルスペース)を作っている。TVの前にはソファを置き、気の合う仲間とくつろげる空間を作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物本人らしい生活ができるよう支援してるが、安全も考慮し、本人家族と相談了解のもと配置を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度は毎日把握・記録し、利用者の体調に合わせた配慮をしている。観葉植物を配置し、換気には常に気を配っている。においが気になる時は、消臭剤を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	物干しは利用者の作業のしやすいものを使用している。浴室は利用者の状態に応じ、椅子の場所を移動するなど、安全に入浴できるように配慮している。洗面所・トイレは、車椅子でも使用できるようになっている。転倒のリスクの高いスリッパは、使用していない。個々の歩行状態に合わせ、自室のじゅうたんは家族と同意の下外している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室扉に名前を貼ったり、タンスの引き出しに張り紙、トイレに張り紙をし、リビングにはカレンダー(日めくりと一月の物2種類)・時計を設置。一人一人の認識レベルに変化があったときに、ミニカンファやカンファレンスで話し合っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物横に畑や花畑を設け、利用者が作業出来る様にした。室外での食事やお茶等日常的に楽しんでいる。テントがあり、日差しの強い日でも過ごしやすい工夫をしている。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・毎月通信を発行し、利用者の暮らしぶりを写真と文章で伝えている。
- ・普段の生活の様子をまとめた物をDVDにし、家族会で見て頂いている
- ・「明るく、笑顔で、元気に」をモットーに、笑いある毎日になるように職員全員で取り組んでいる
- ・利用者一人ひとりに対する思いやりと、受容の気持ちで、愛情を持った対応が出来ている。
- ・チームケアに重点を置いている事が、利用者の笑顔を引き出していると思う。
- ・外出行事が多く、利用者が楽しみにしており、気分転換になっている
- ・情報の共有を職員一人一人が心がけケアプラン作りも皆で話し合い、作成している。
- ・畑で色々な野菜を育て、収穫した物を使用した食事を提供している
- ・今年の夏祭りは、家族や地域の方にも参加して頂き盛大に行なった